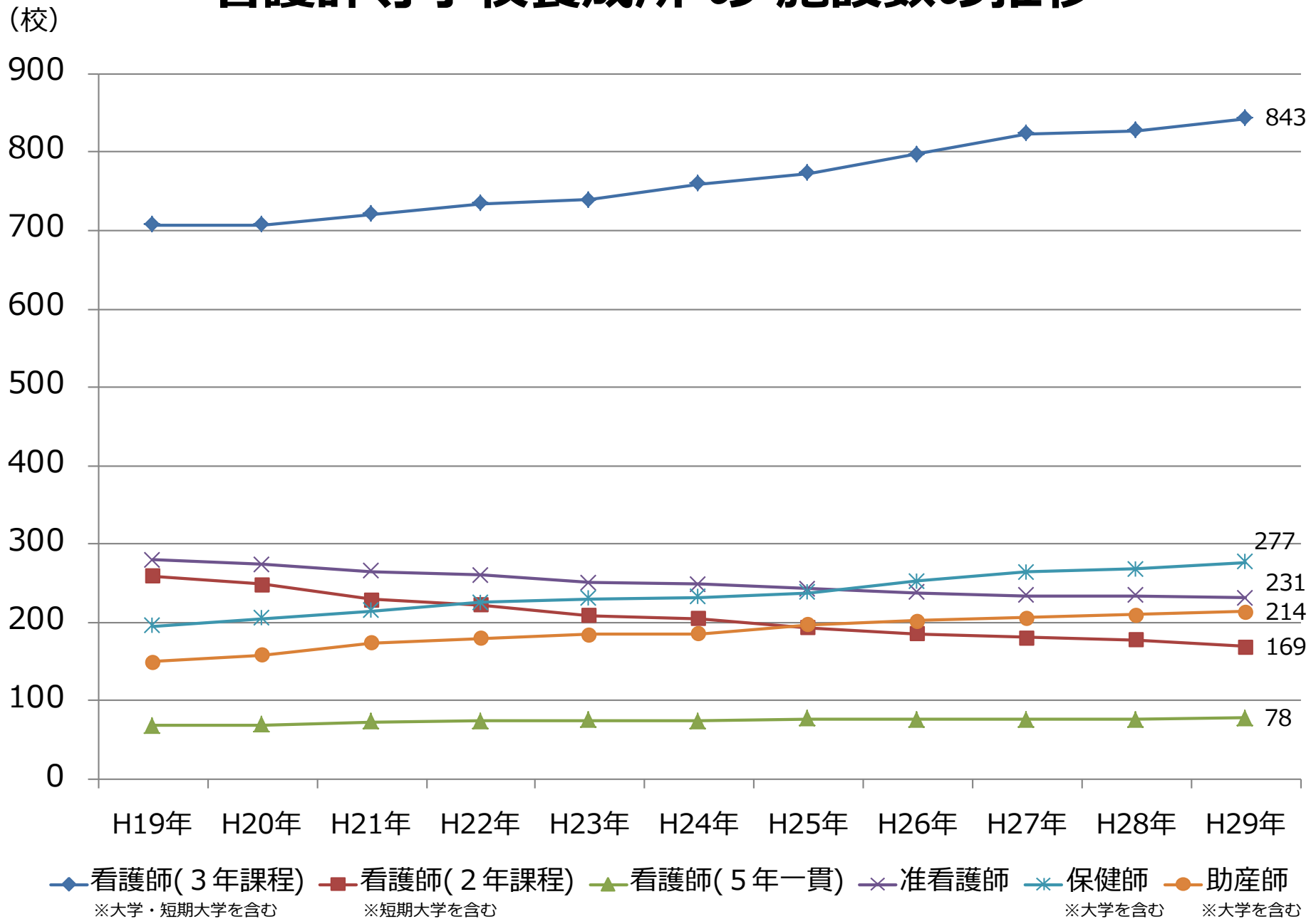


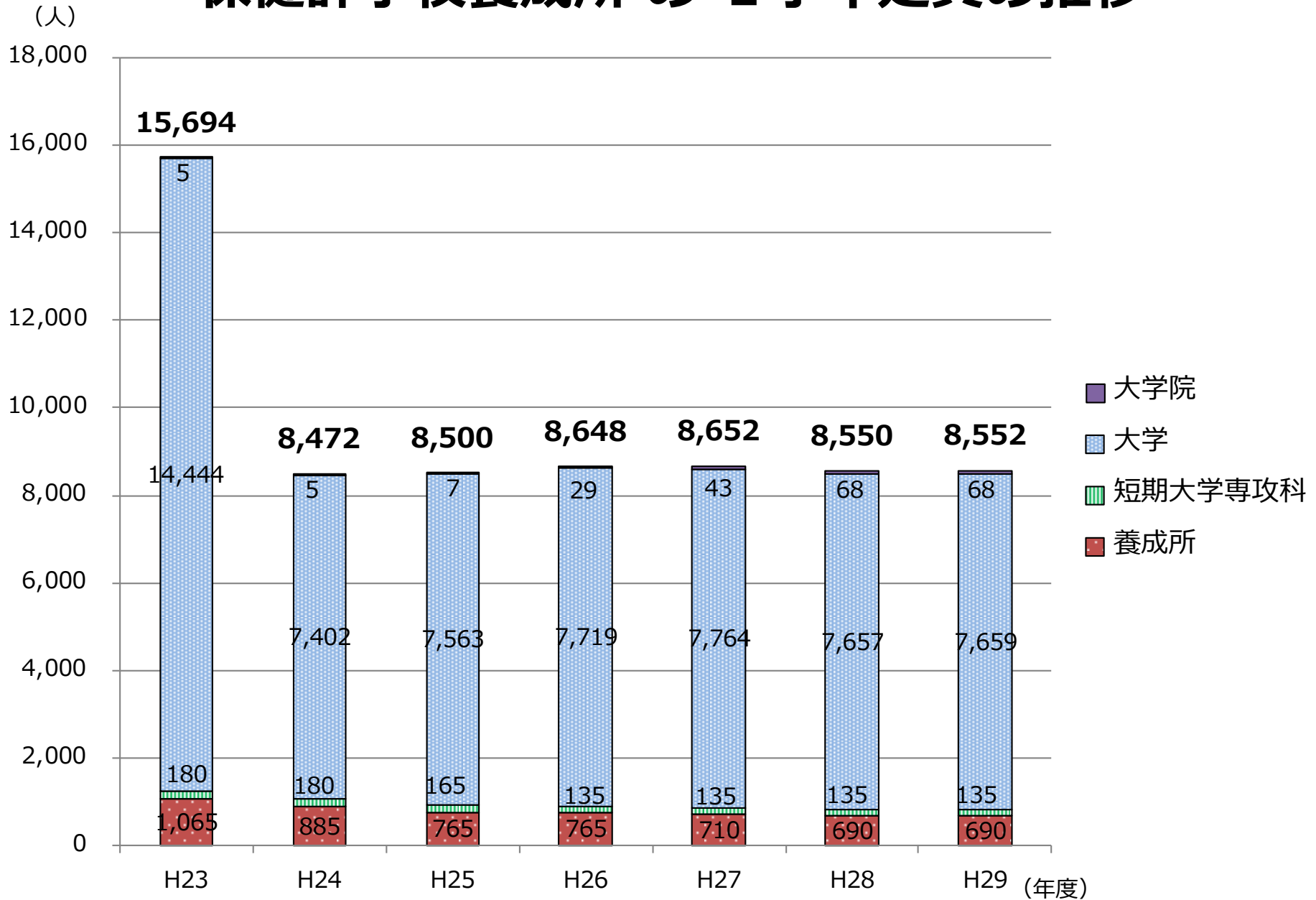
# 看護基礎教育を取り巻く現状等の 参考資料

# 1. 看護師等学校養成所に関する基礎資料

# 看護師等学校養成所の施設数の推移



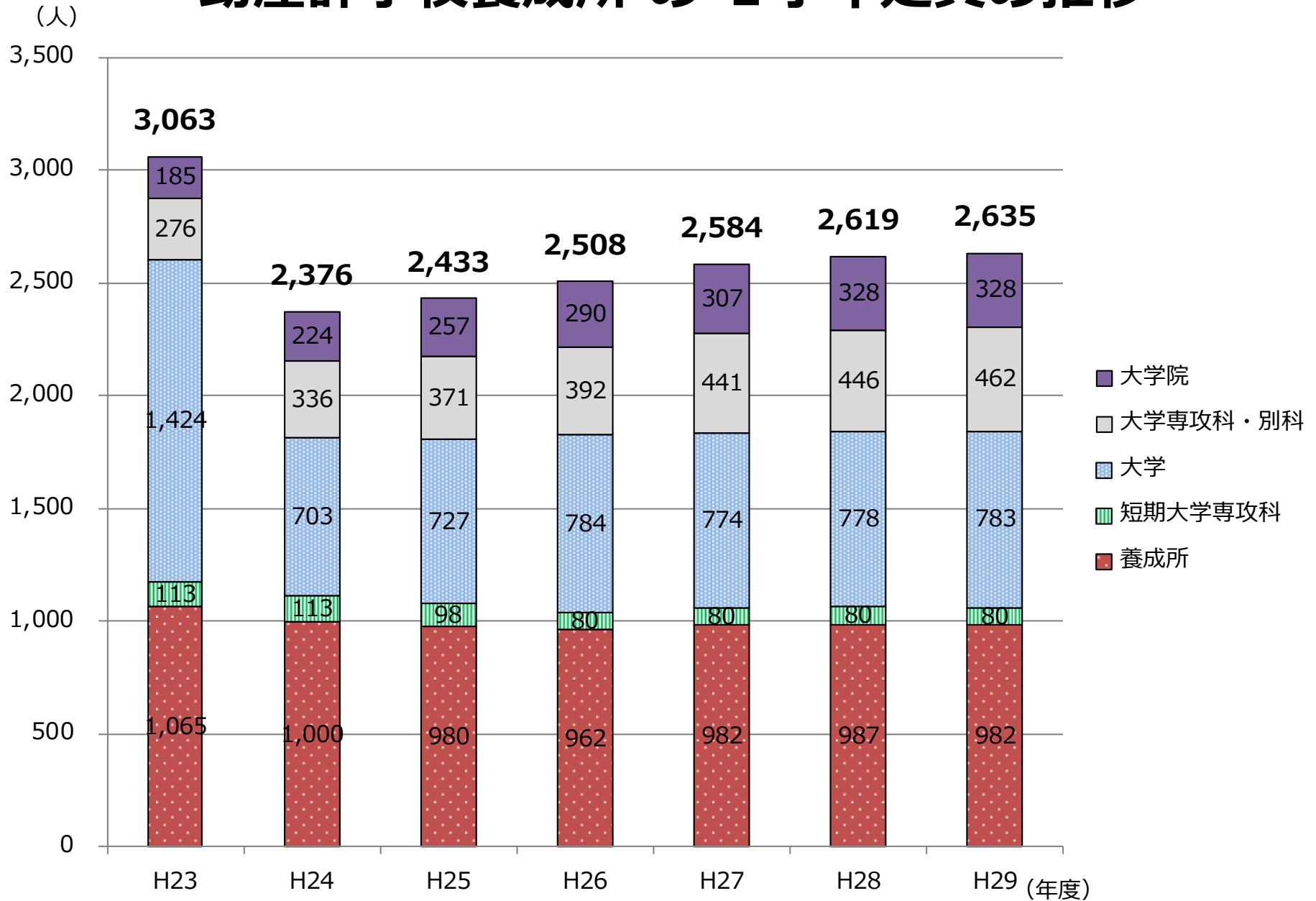
# 保健師学校養成所 の 1 学年定員の推移



養成所：看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査（厚生労働省）

養成所以外：文部科学省高等教育局医学教育課調べ

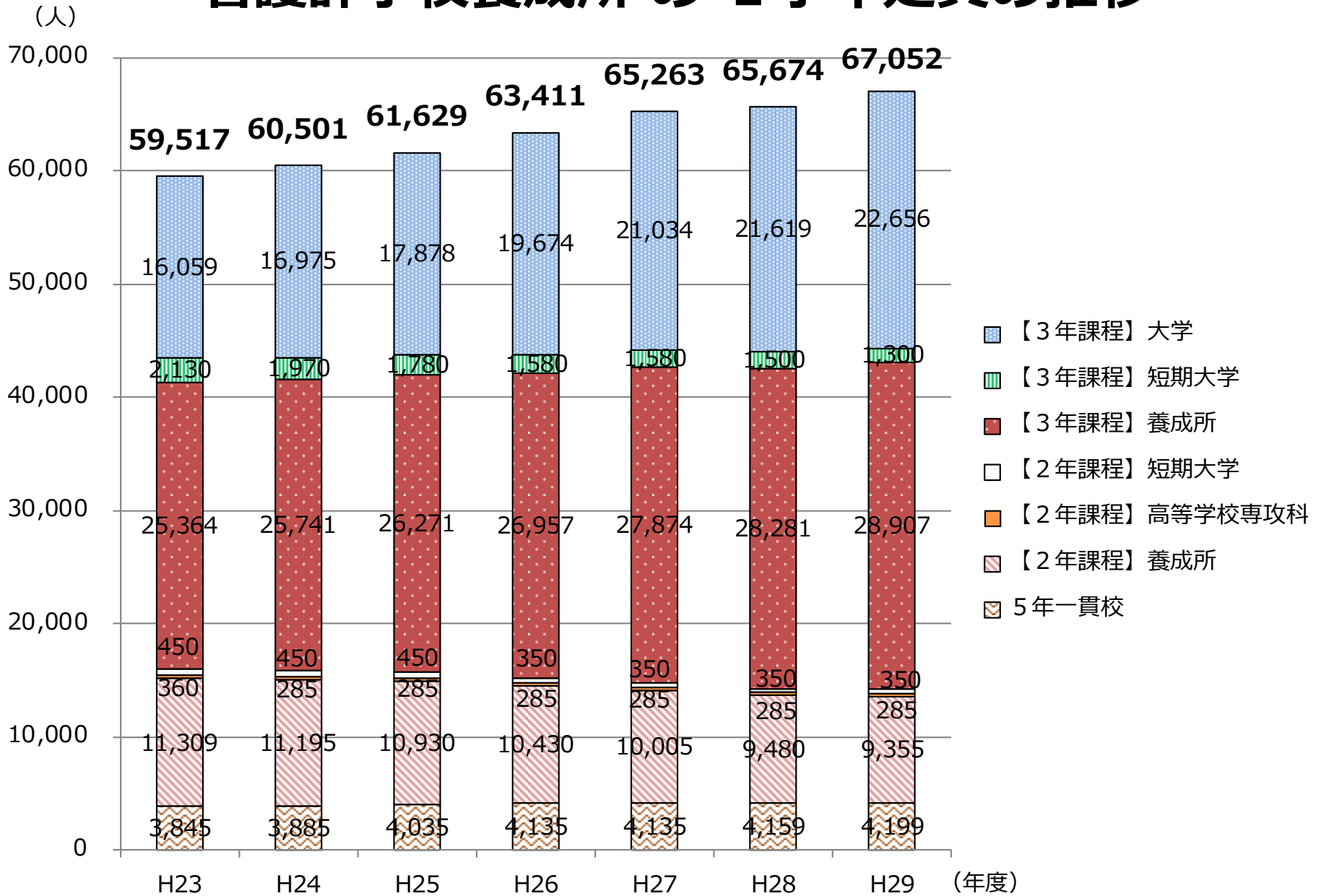
# 助産師学校養成所の1学年定員の推移



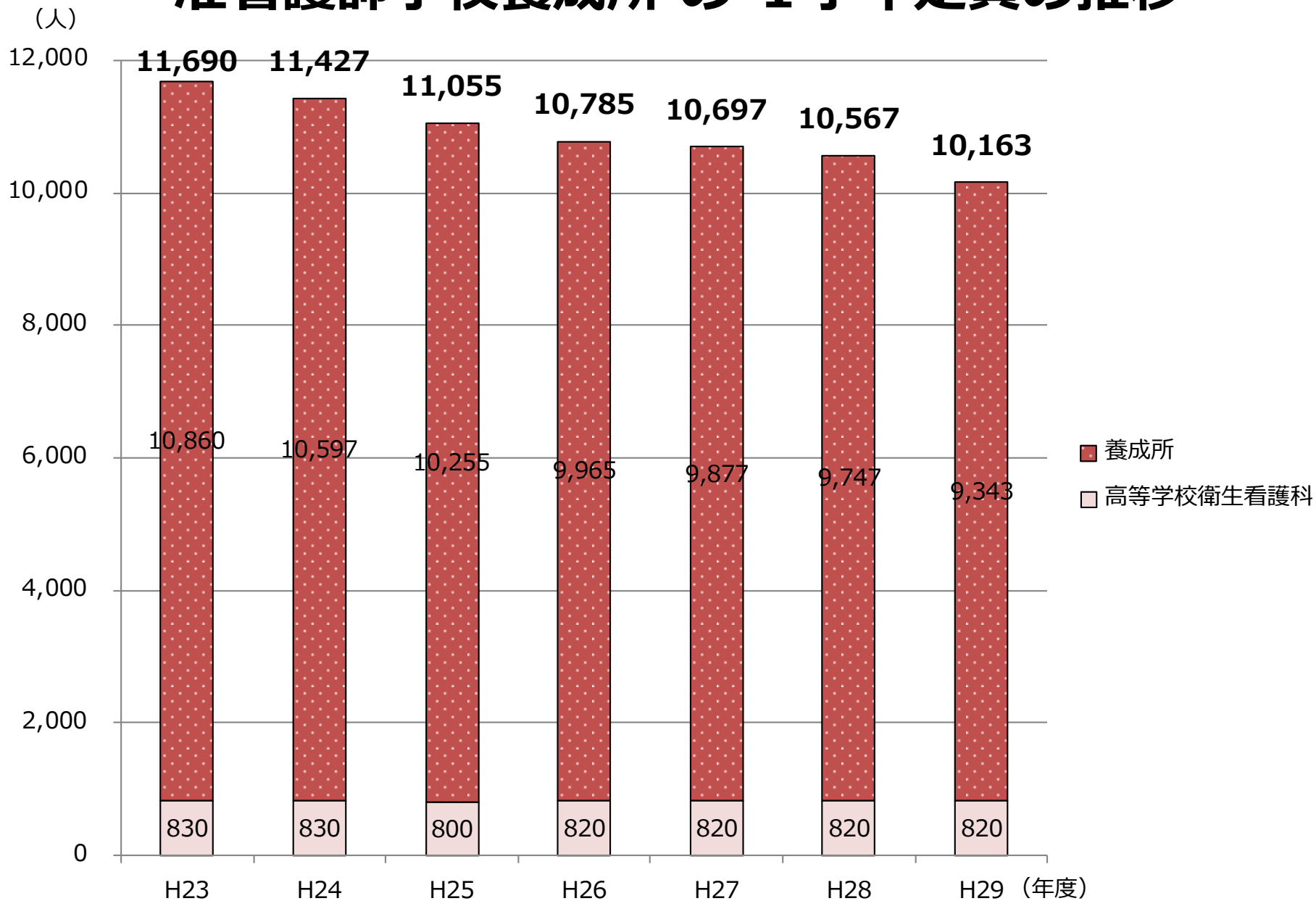
養成所：看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査（厚生労働省）

養成所以外：文部科学省高等教育局医学教育課調べ

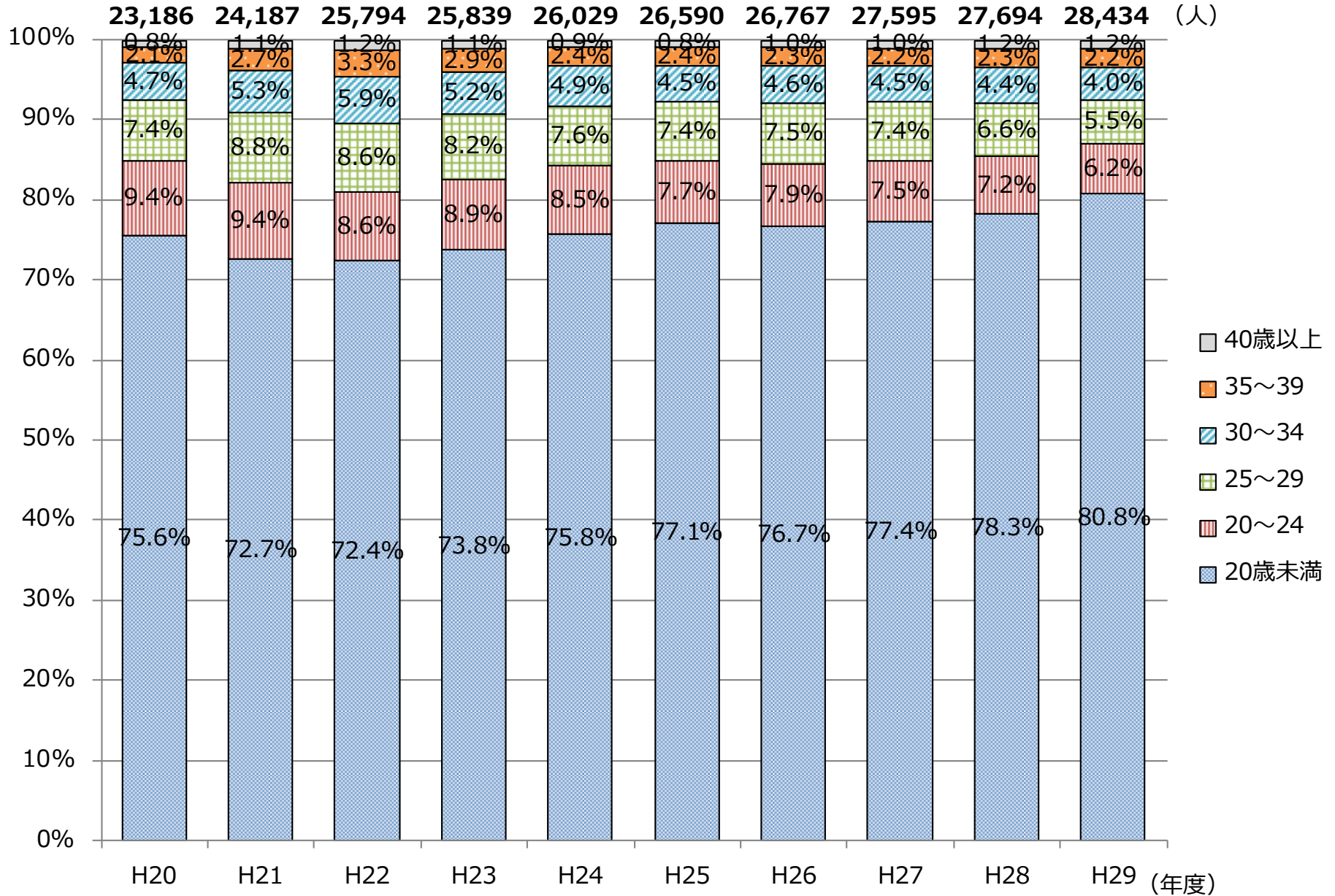
# 看護師学校養成所の1学年定員の推移



# 准看護師学校養成所の1学年定員の推移



# 看護師養成所（3年課程）の入学者の年齢構成の推移

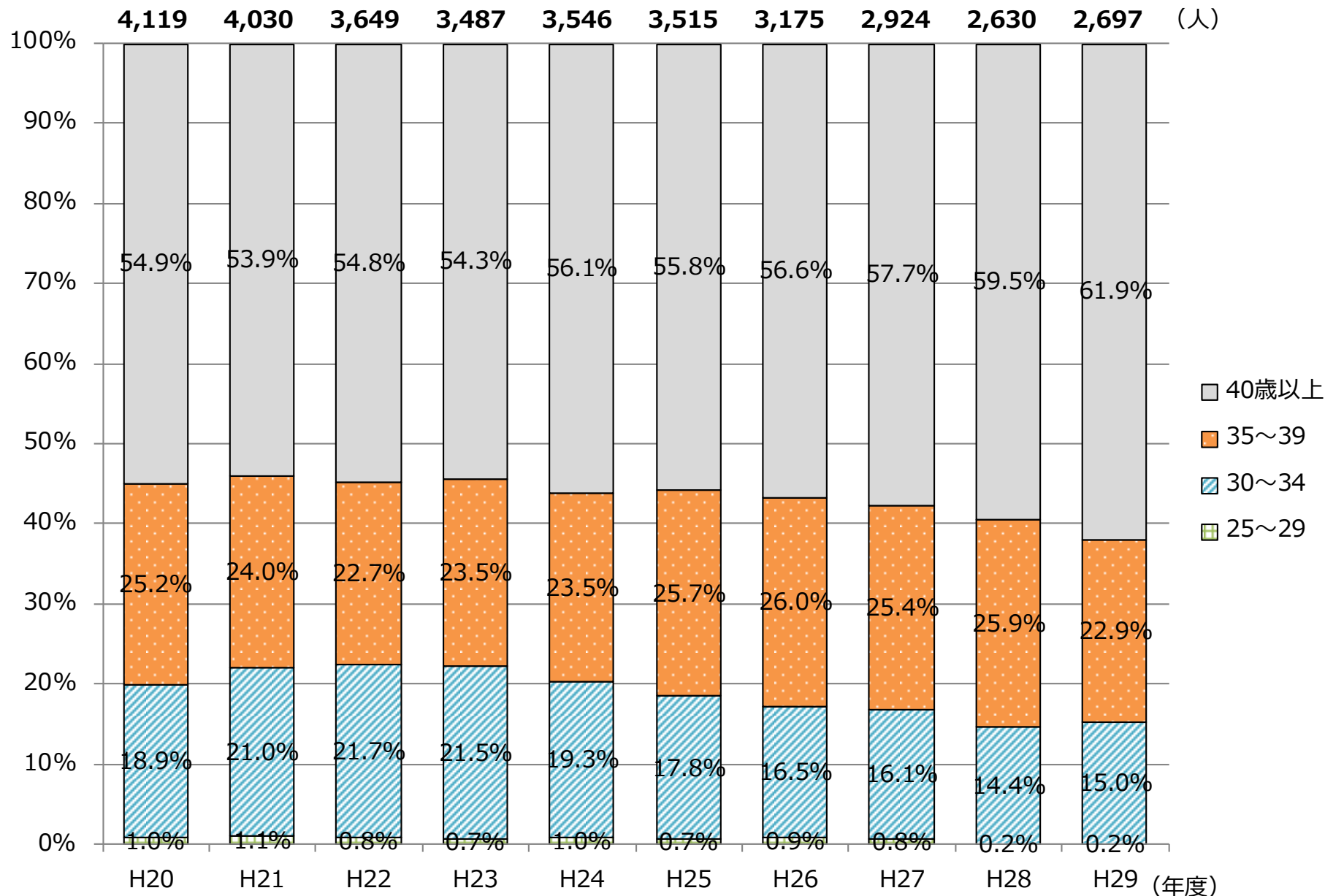




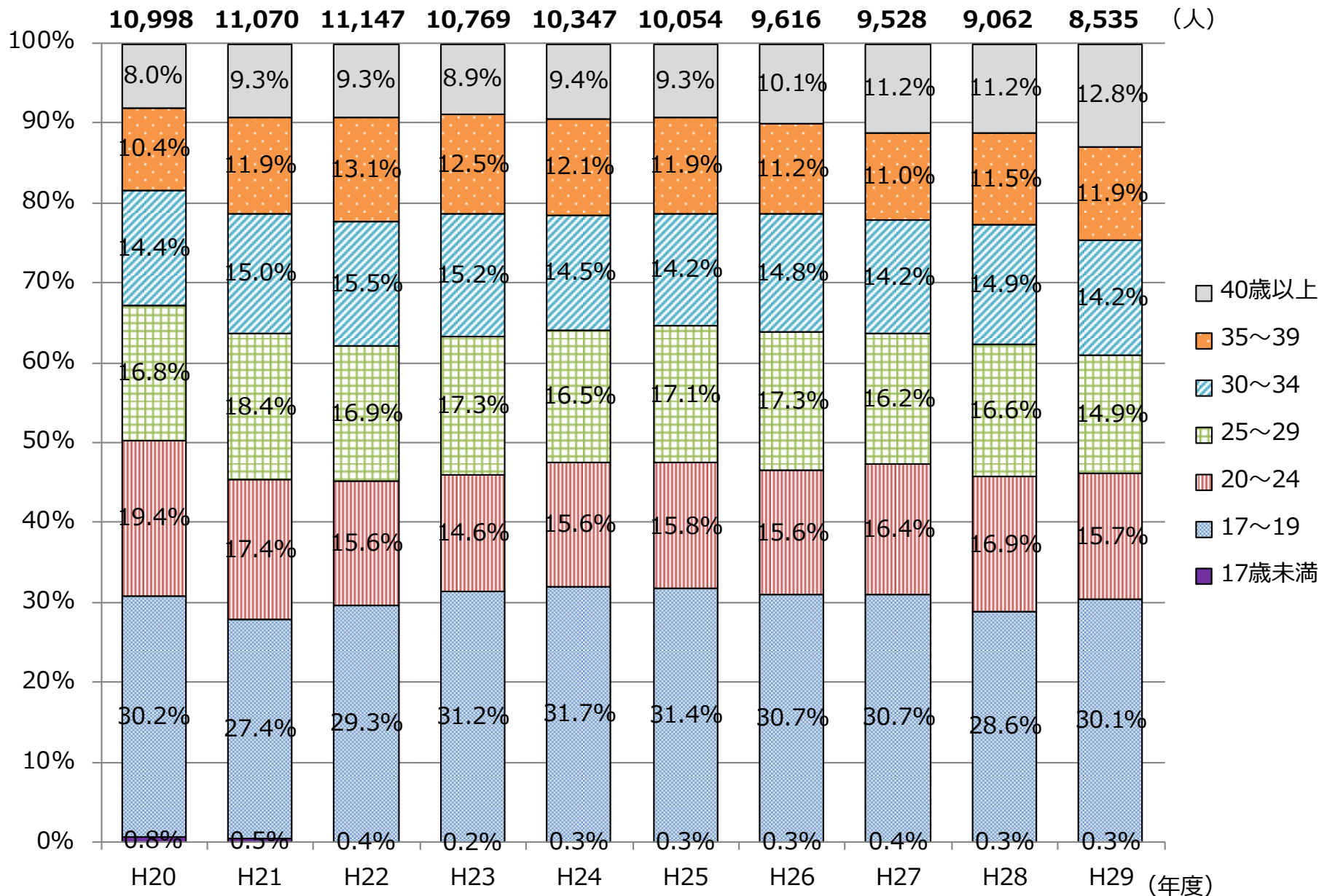
# 看護師養成所（2年課程）の入学者の年齢構成の推移



# 看護師養成所（2年課程通信制）の入学者の年齢構成の推移

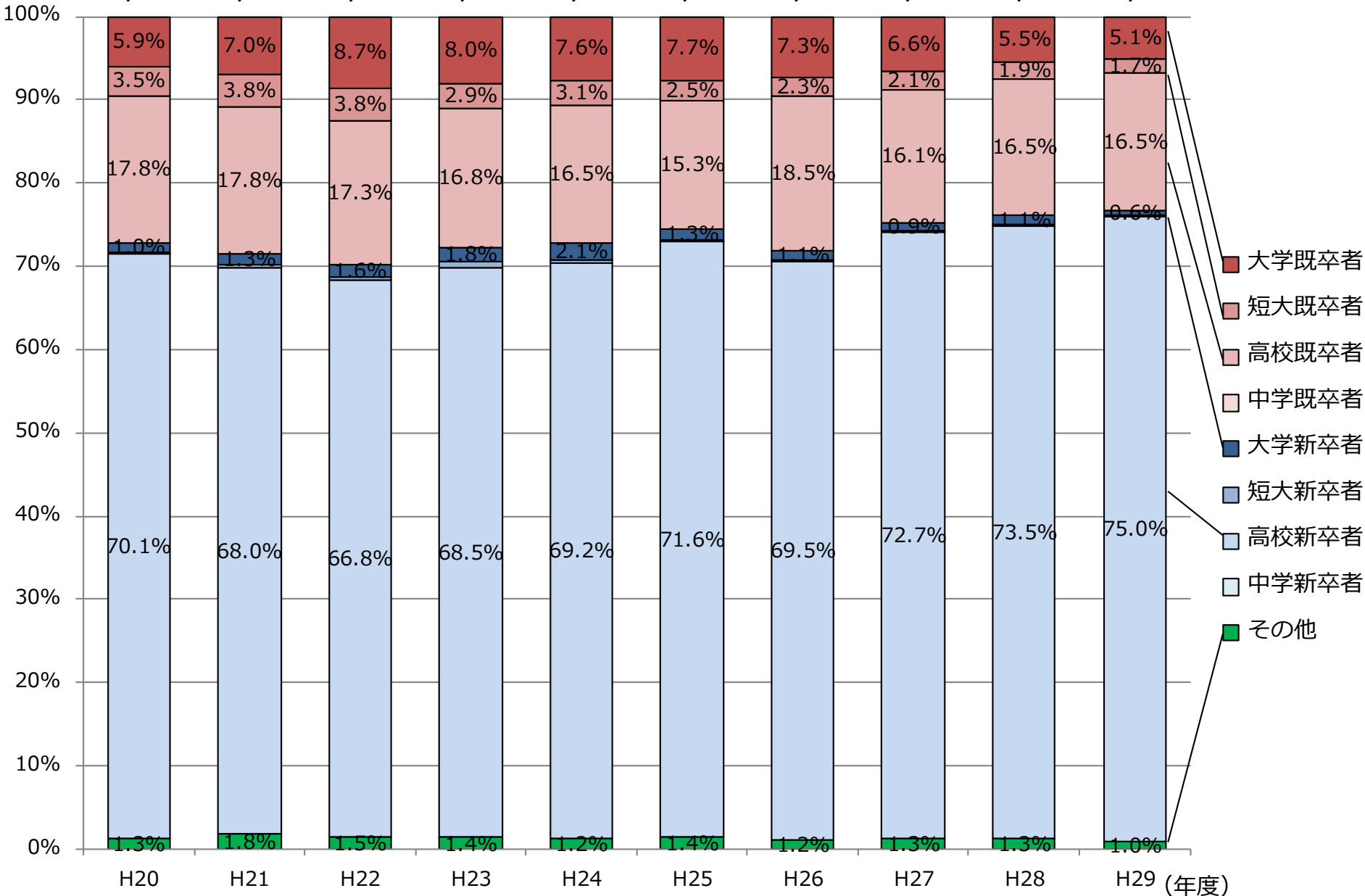


# 准看護師養成所の 入学者の年齢構成の推移

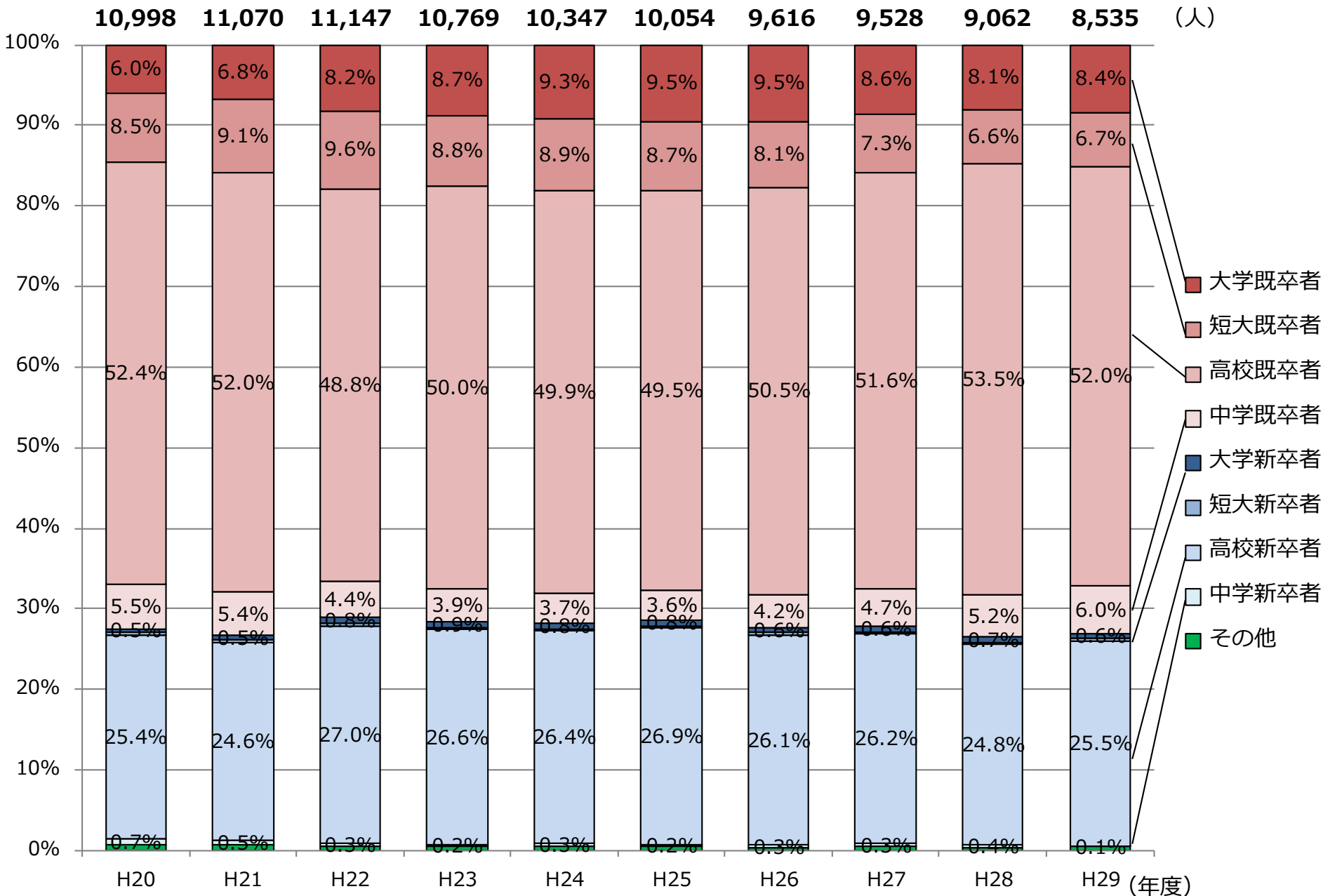


# 看護師養成所（3年課程）の入学者の一般教育学歴の推移

23,186 24,187 25,794 25,839 26,029 26,590 26,767 27,595 27,694 28,434 (人)

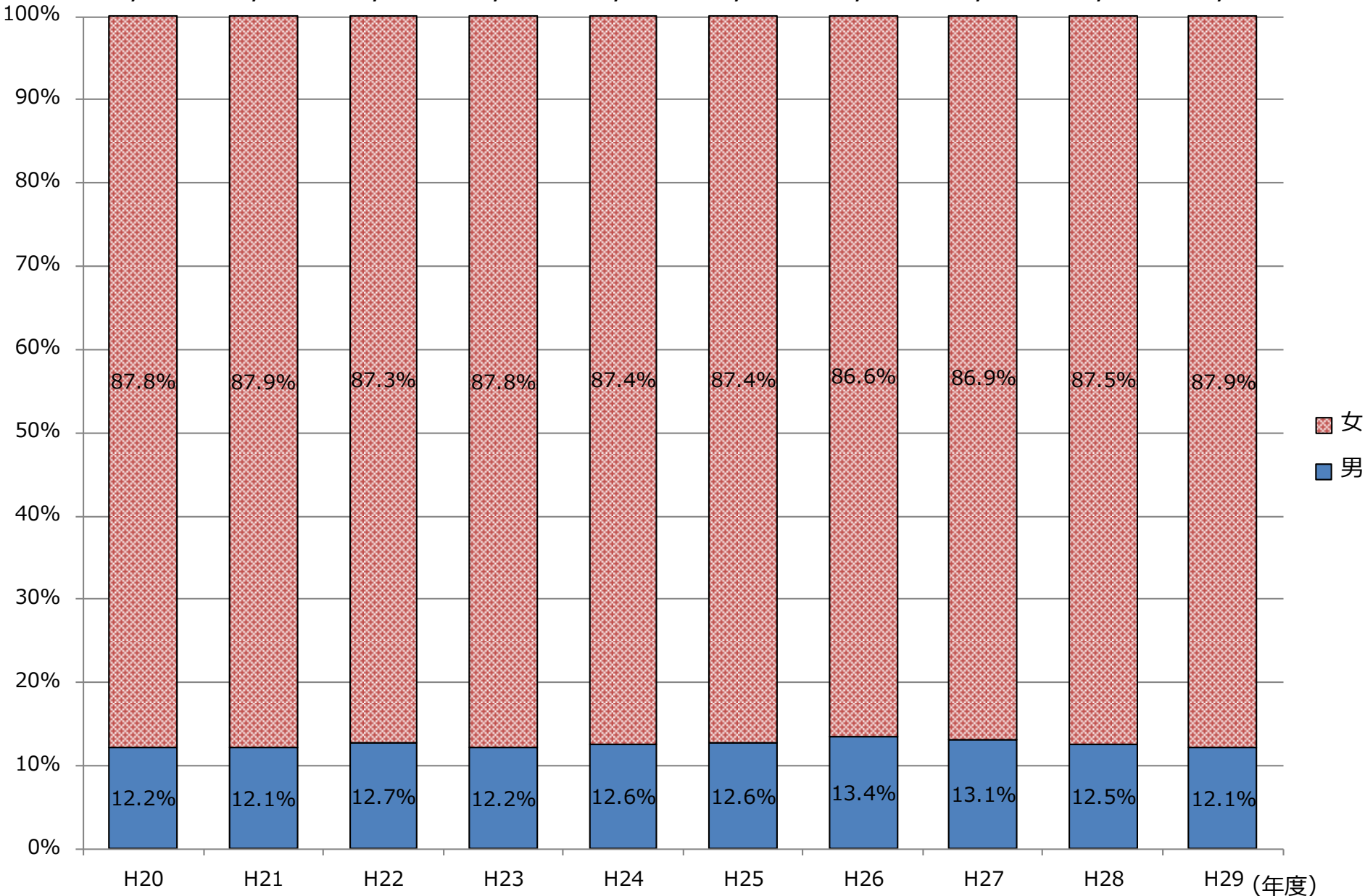


# 准看護師養成所の 入学者の一般教育学歴の推移

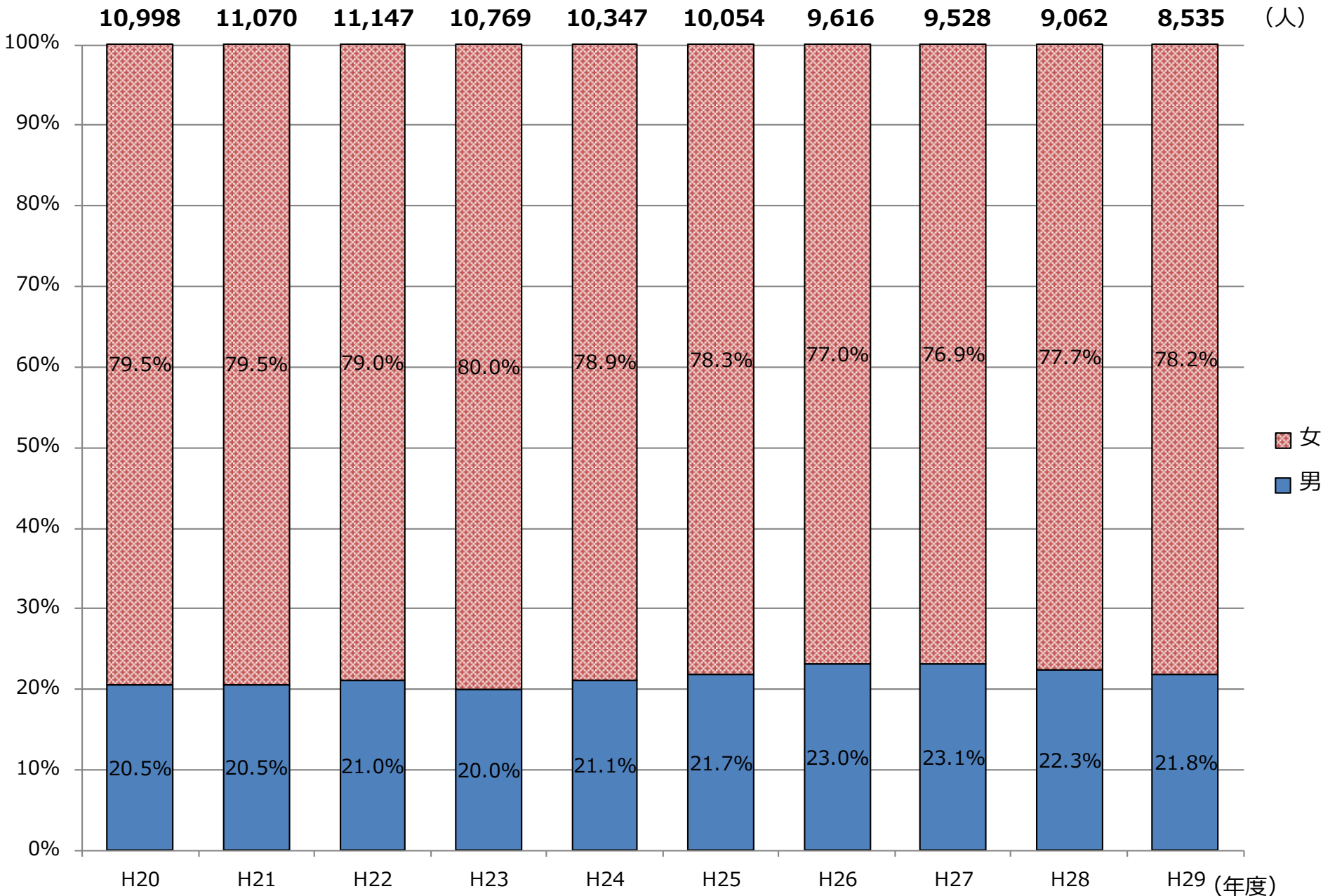


# 看護師養成所（3年課程）の入学者の男女比の推移

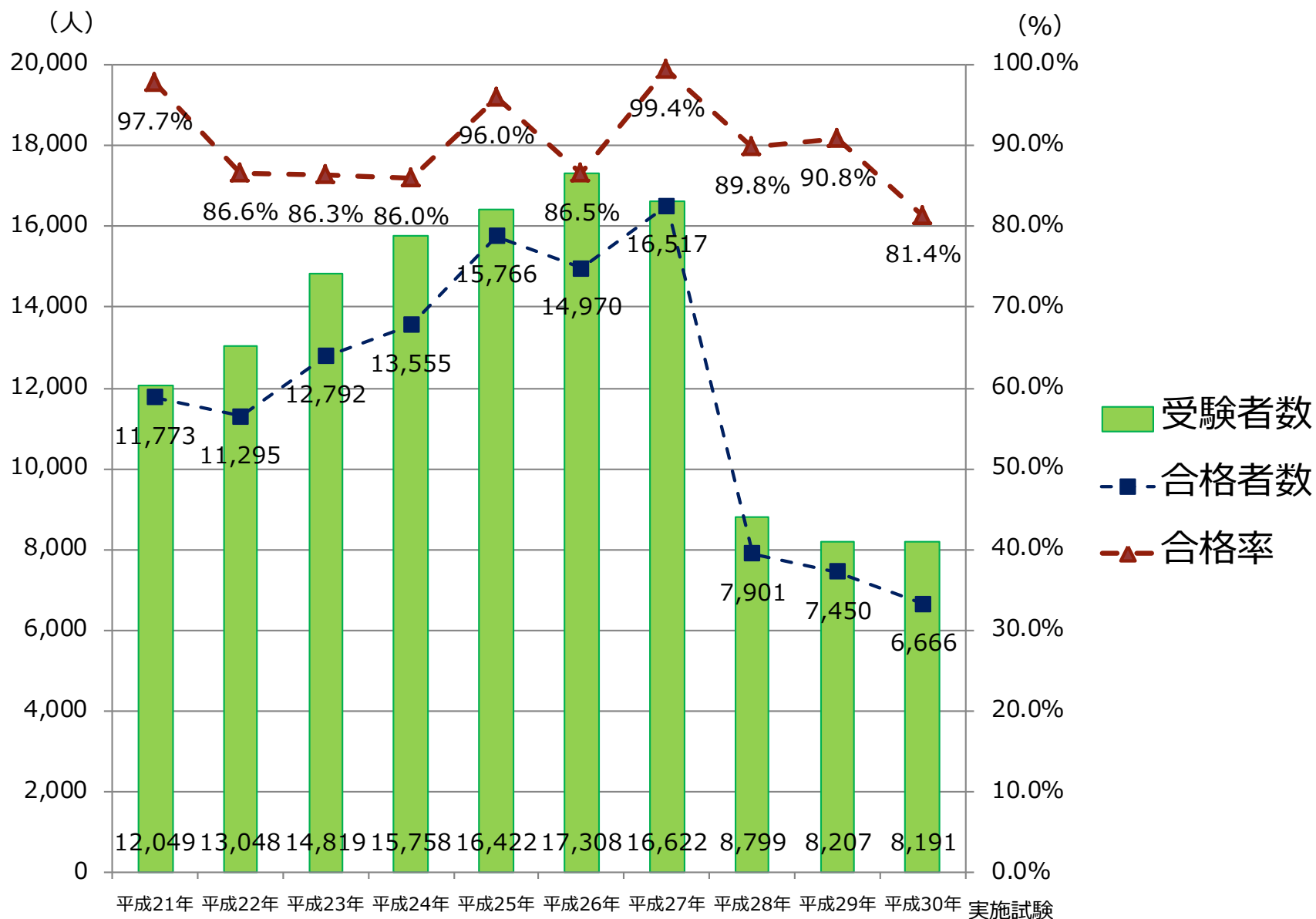
23,186 24,187 25,794 25,839 26,029 26,590 26,767 27,595 27,694 28,434 (人)



# 准看護師養成所の 入学者の男女比の推移

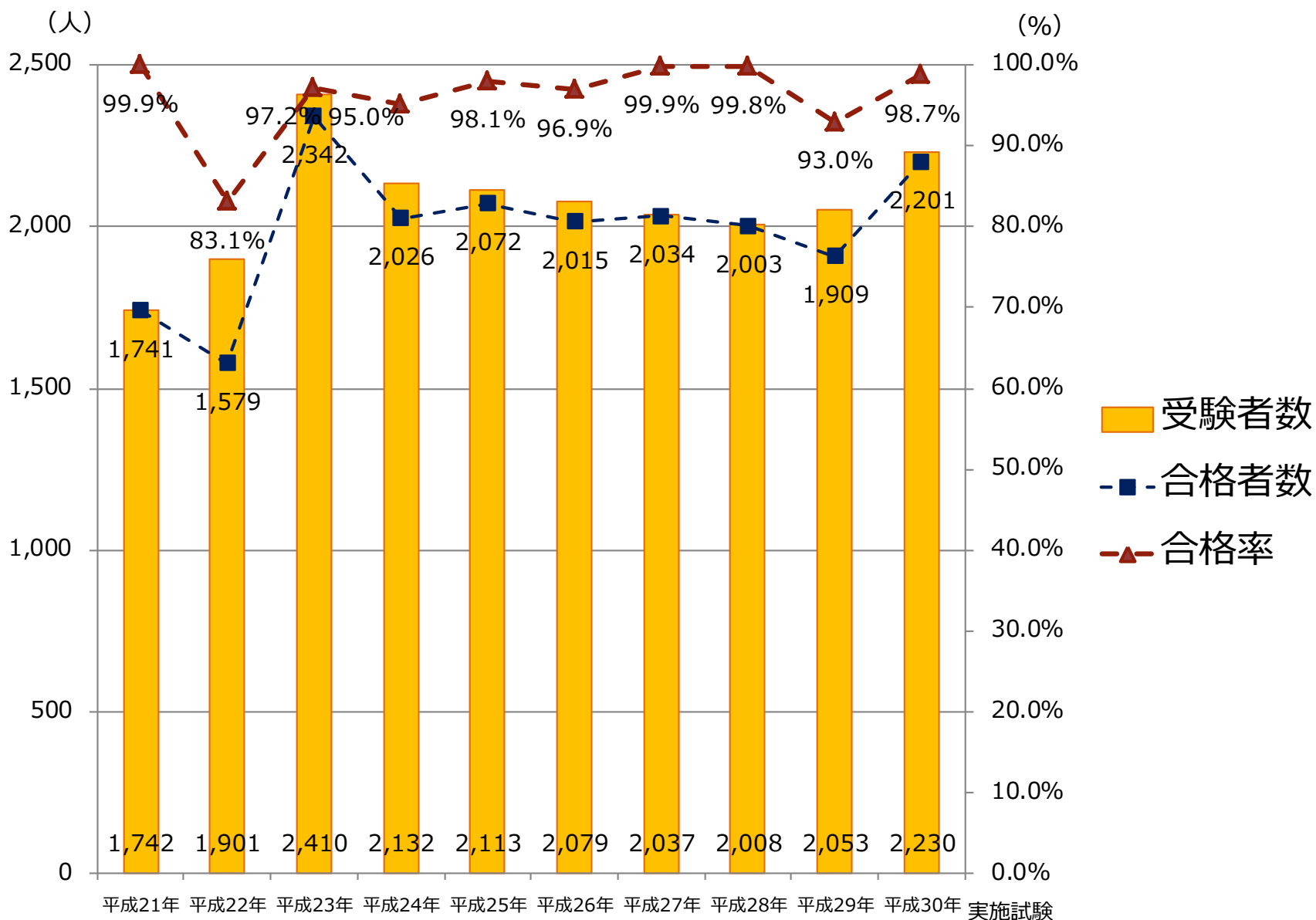


# 保健師国家試験実施状況 及び 合格率の推移

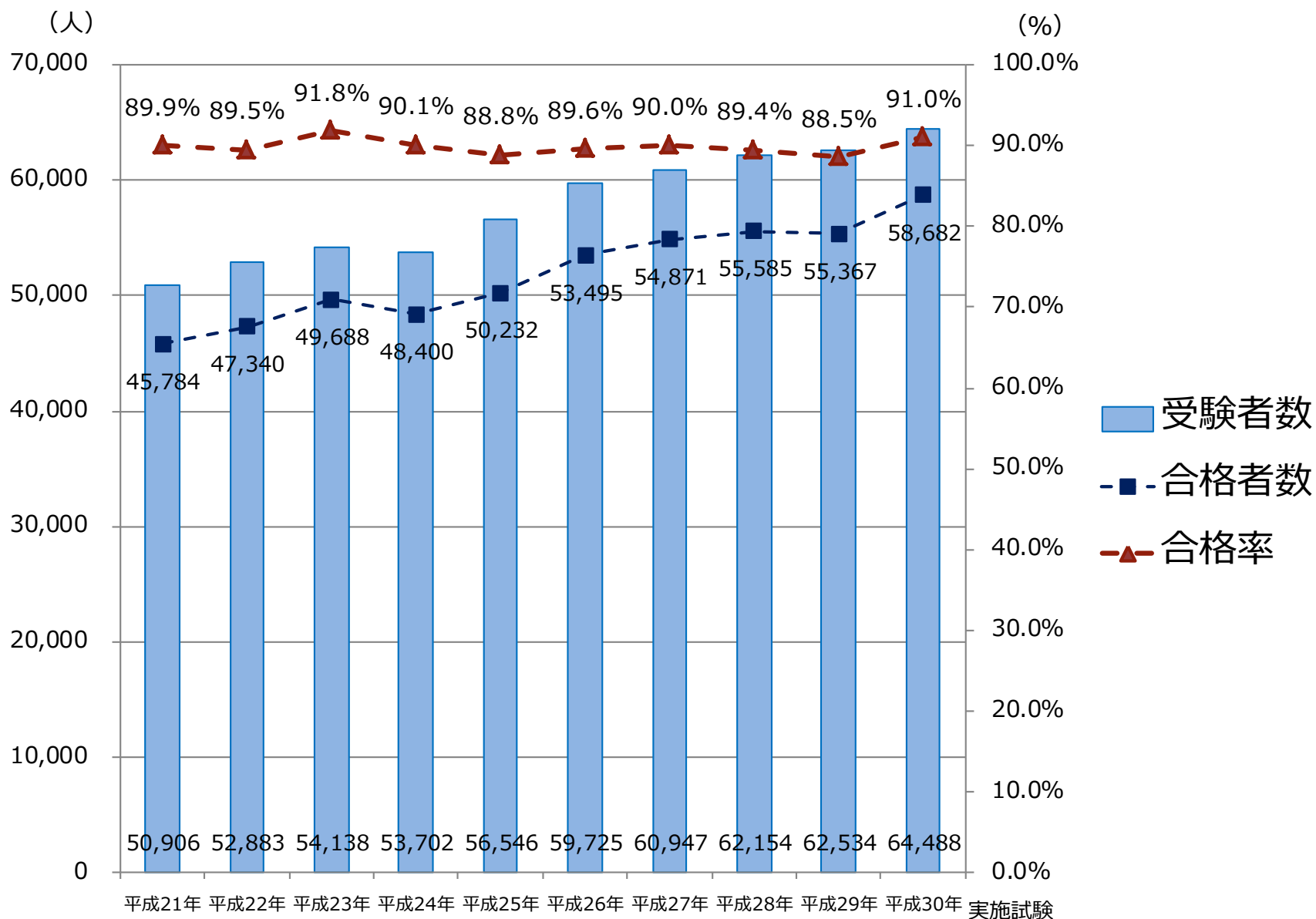




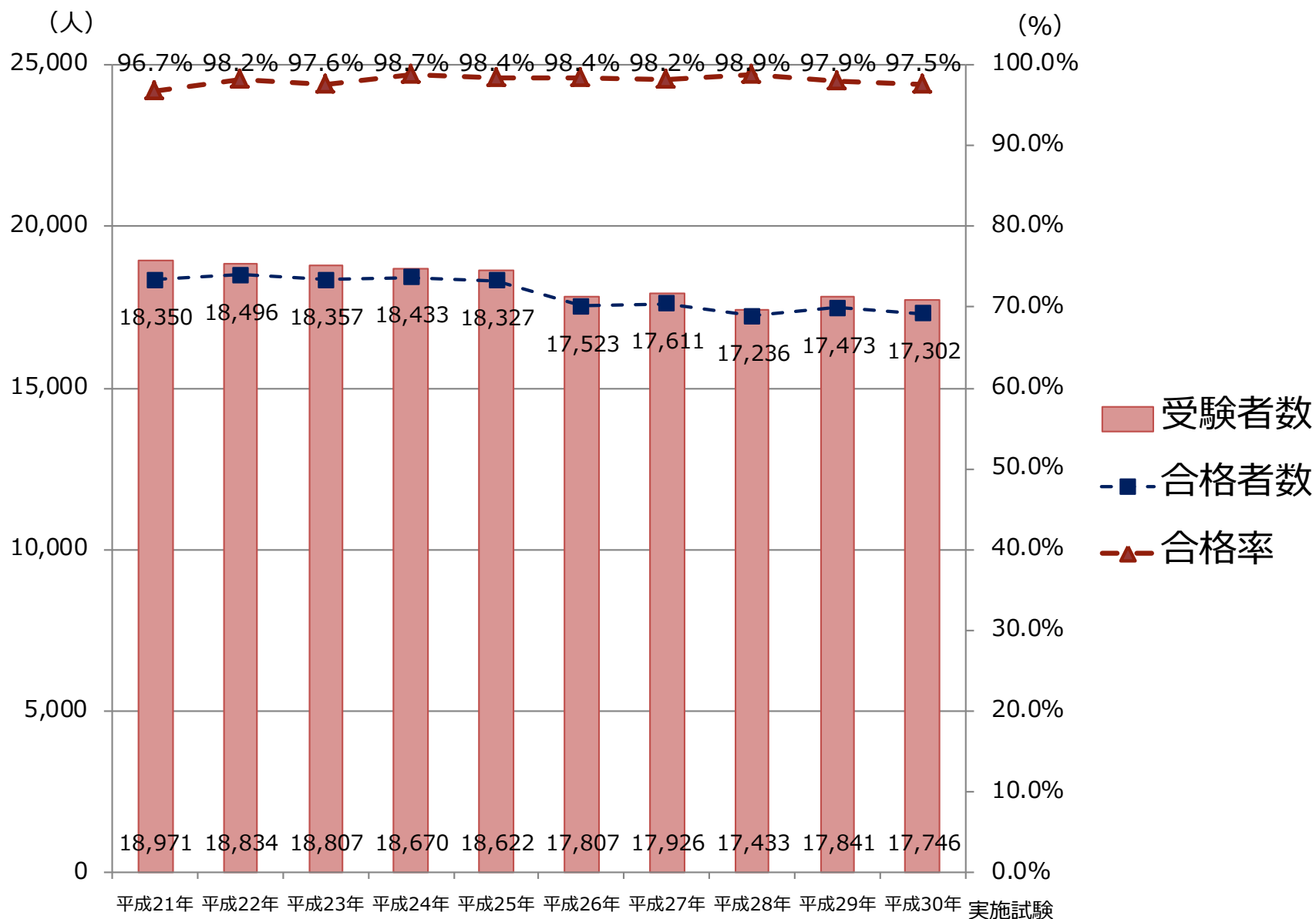
# 助産師国家試験実施状況 及び 合格率の推移



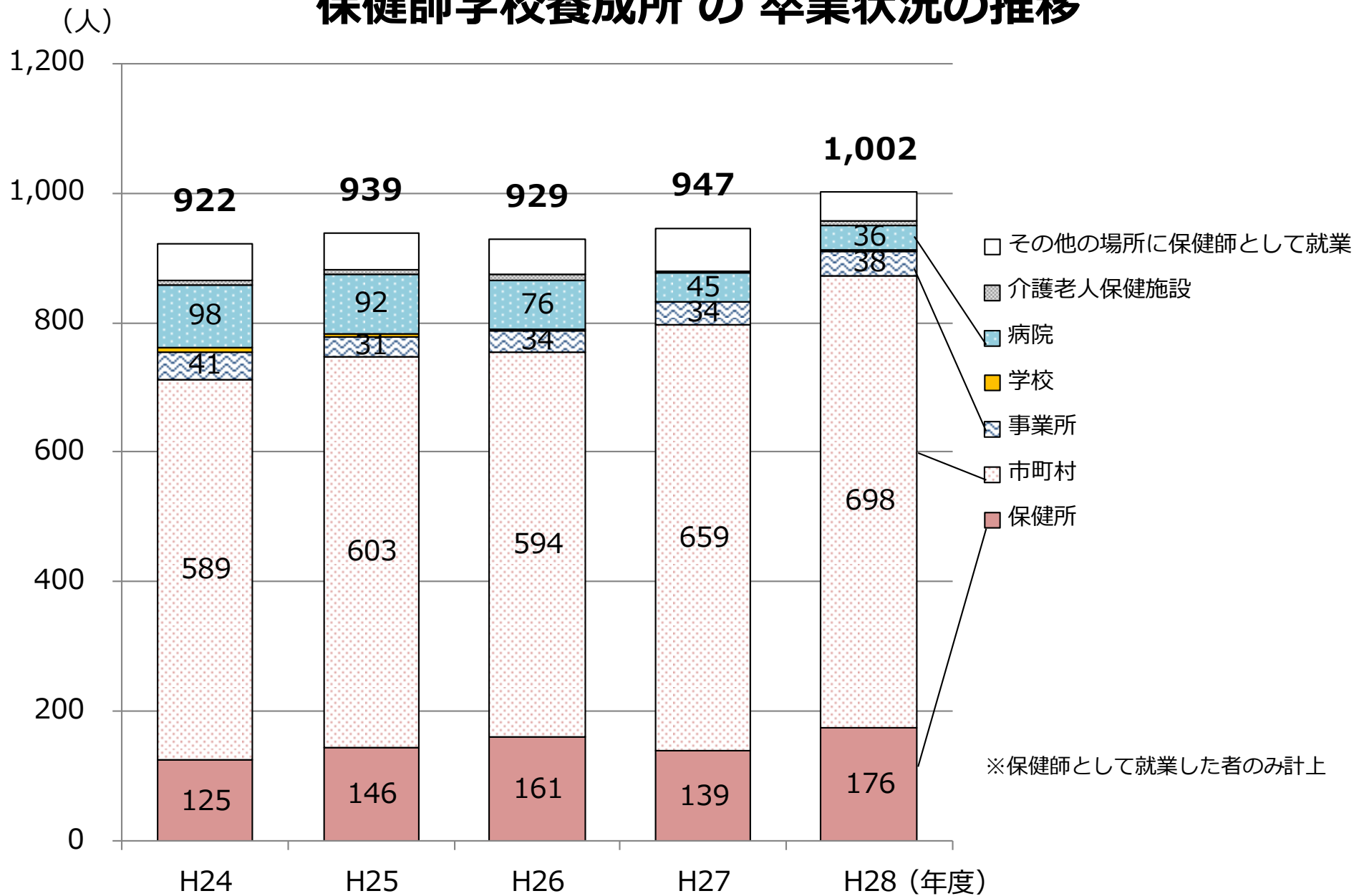
# 看護師国家試験実施状況 及び 合格率の推移



# 准看護師試験実施状況 及び 合格率の推移

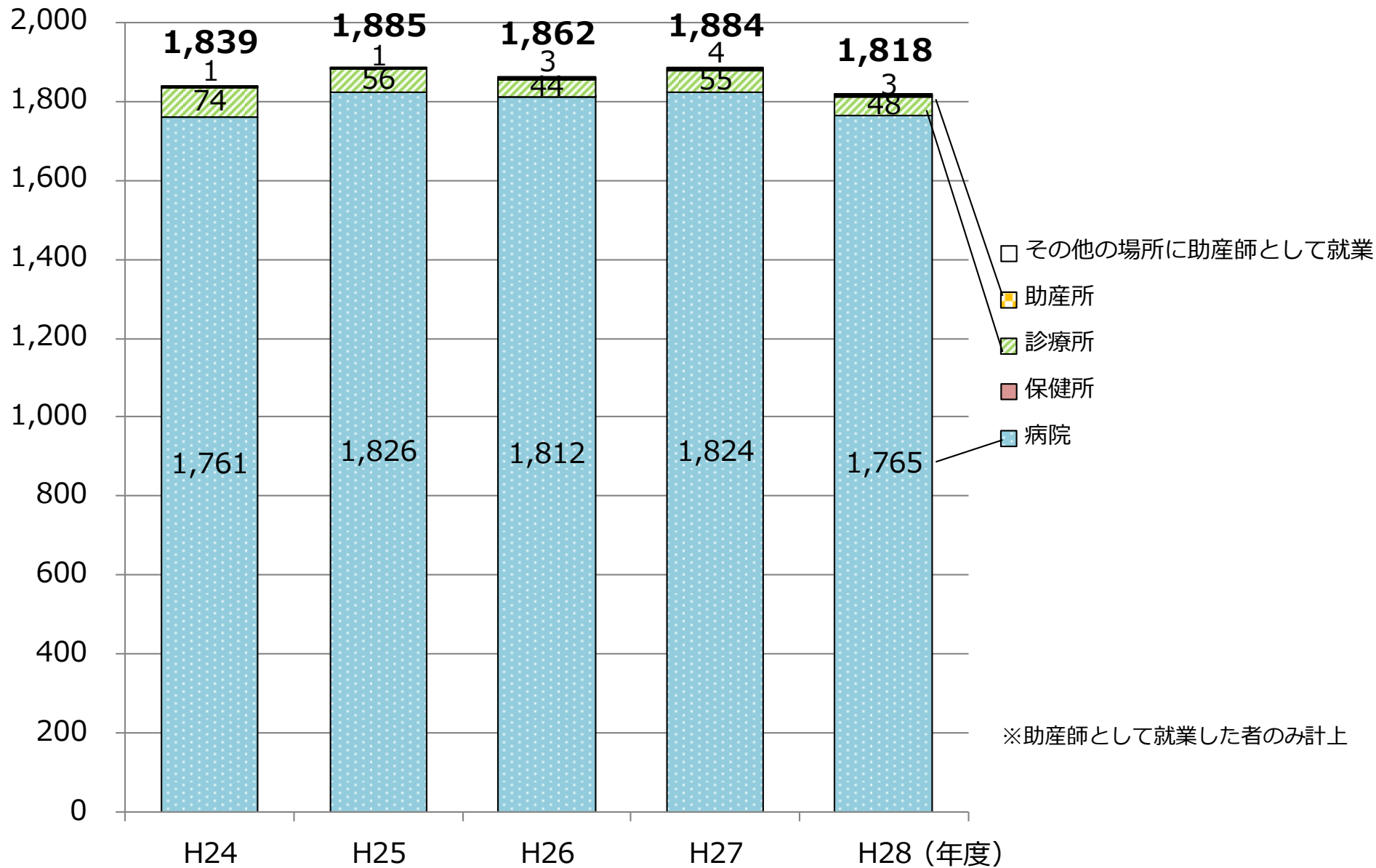


# 保健師学校養成所の卒業状況の推移



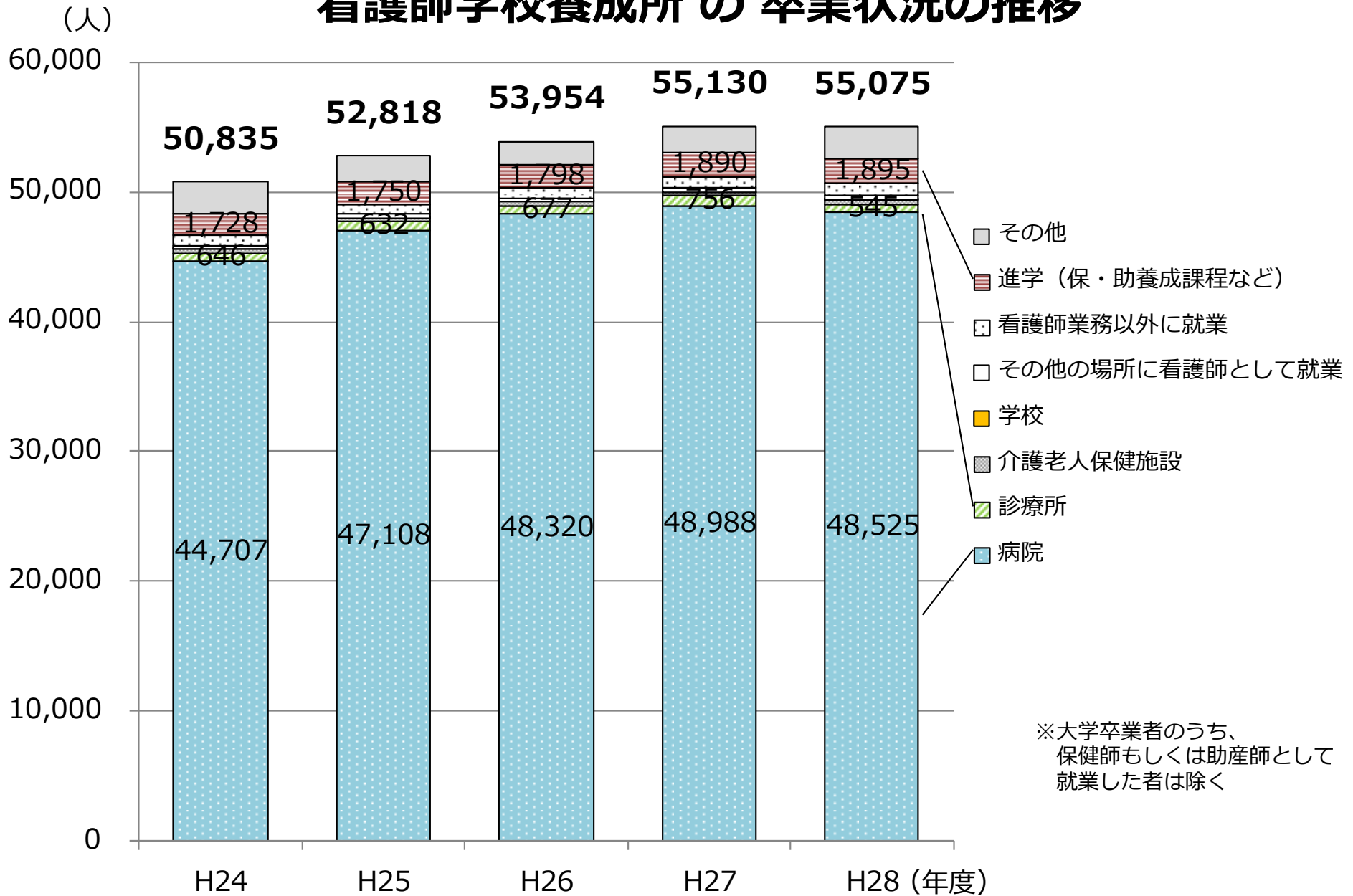
# 助産師学校養成所の卒業状況の推移

(人)

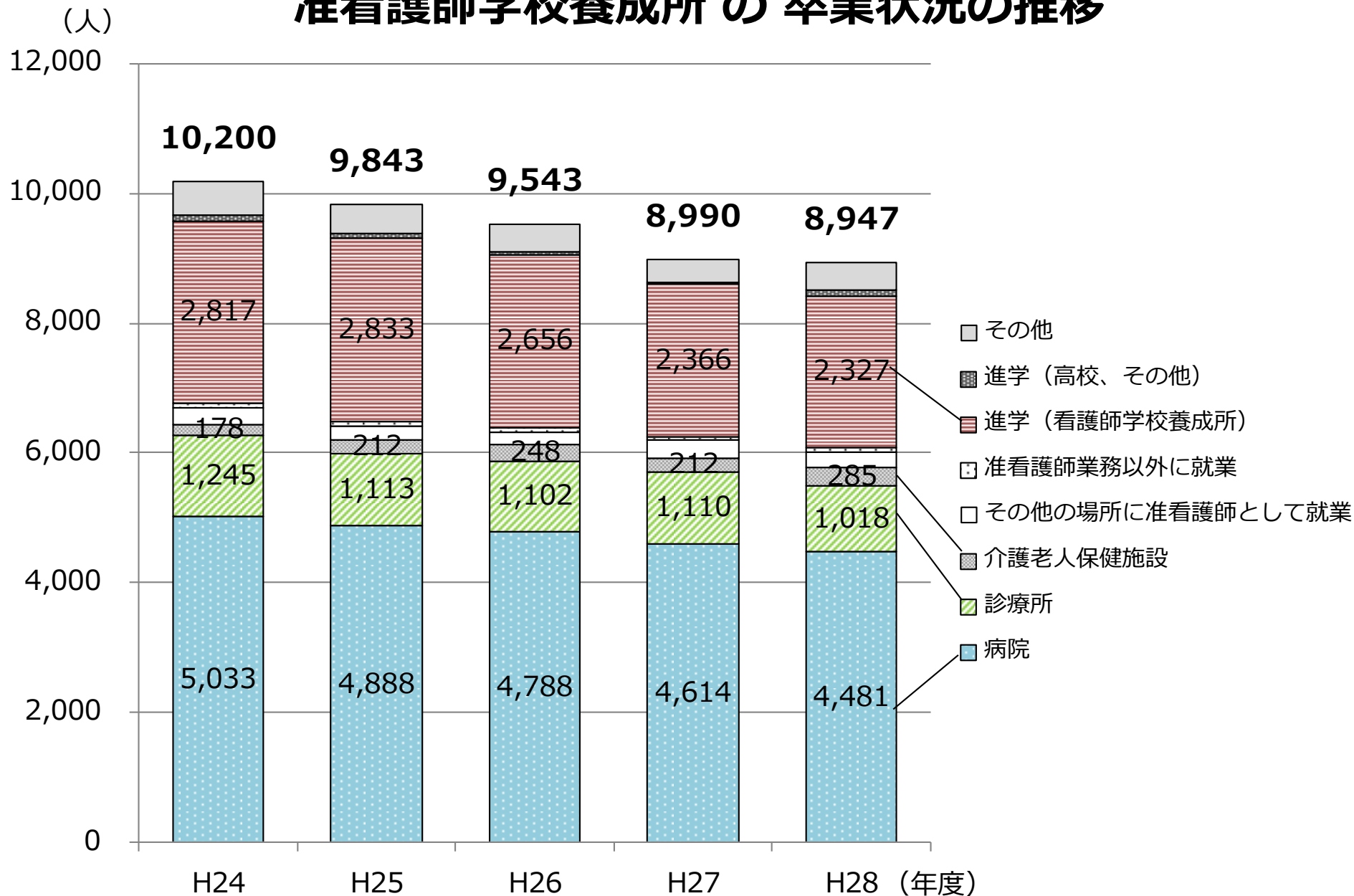


※助産師として就業した者のみ計上

# 看護師学校養成所の卒業状況の推移



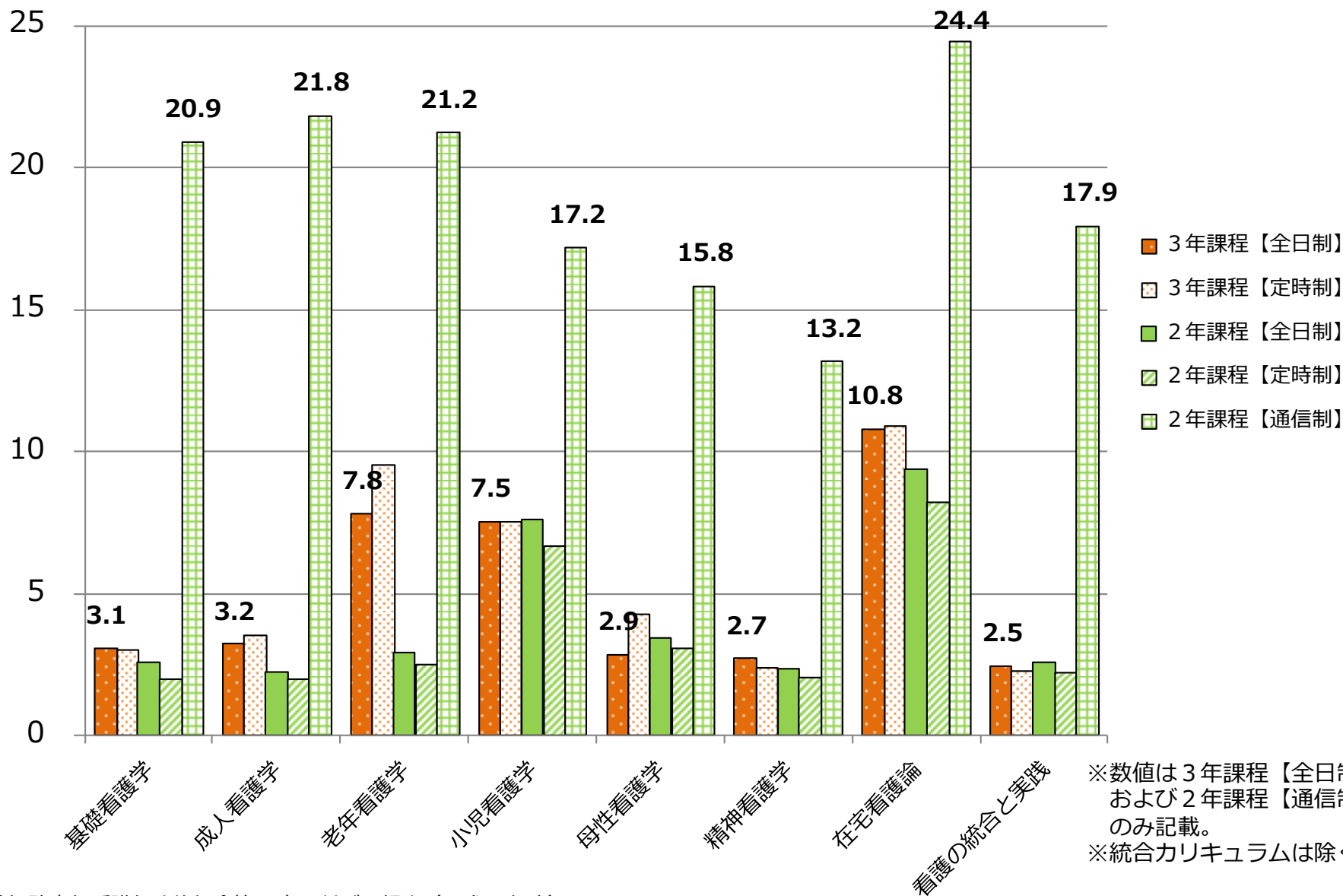
# 准看護師学校養成所の卒業状況の推移



# 看護師養成所における 実習施設の状況 ①

## ＜1校あたりの平均実習施設数（H29年度）＞

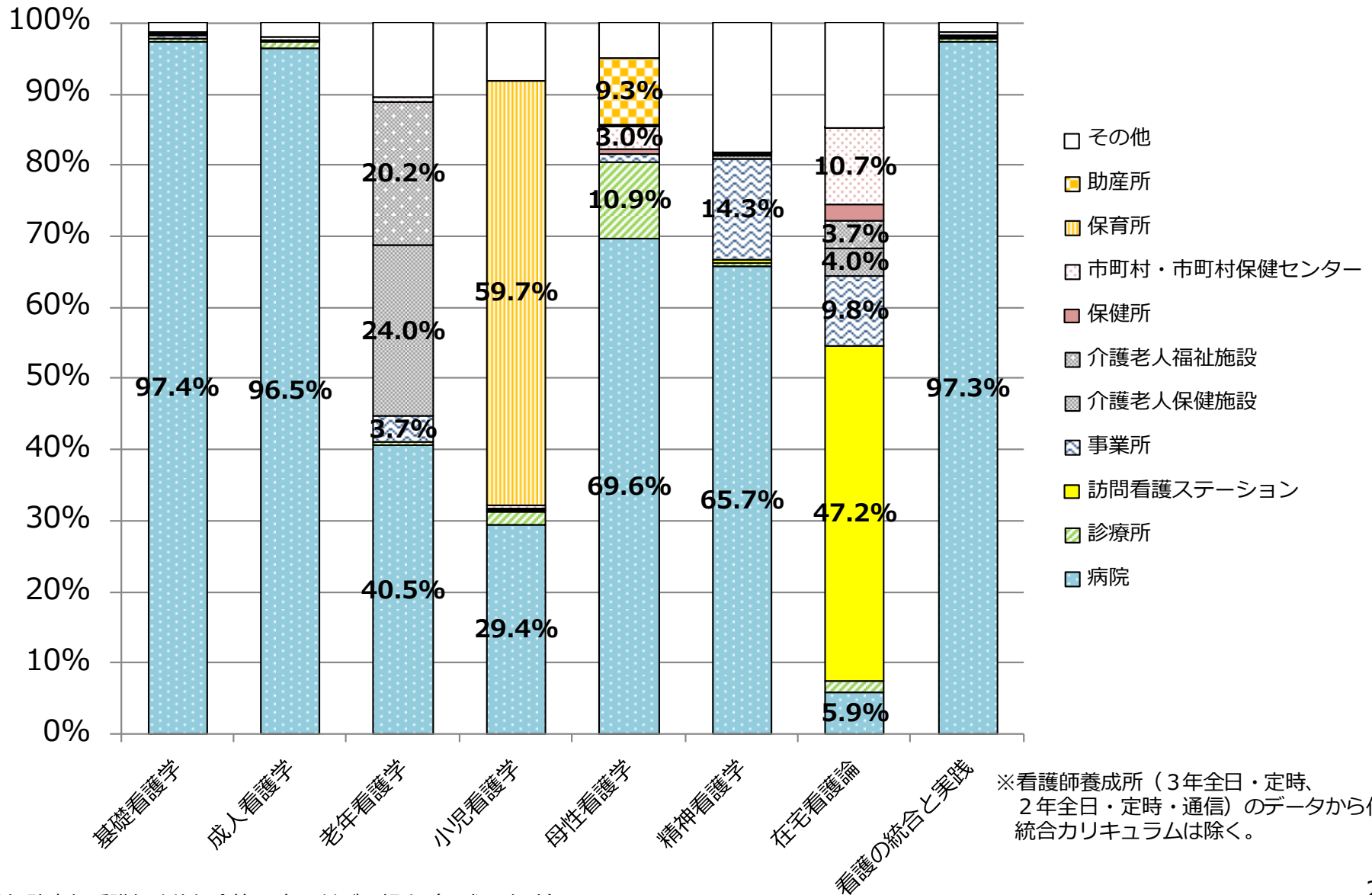
(ヶ所)





# 看護師養成所における 実習施設の状況 ②

## ＜実習施設の内訳（H29年度）＞



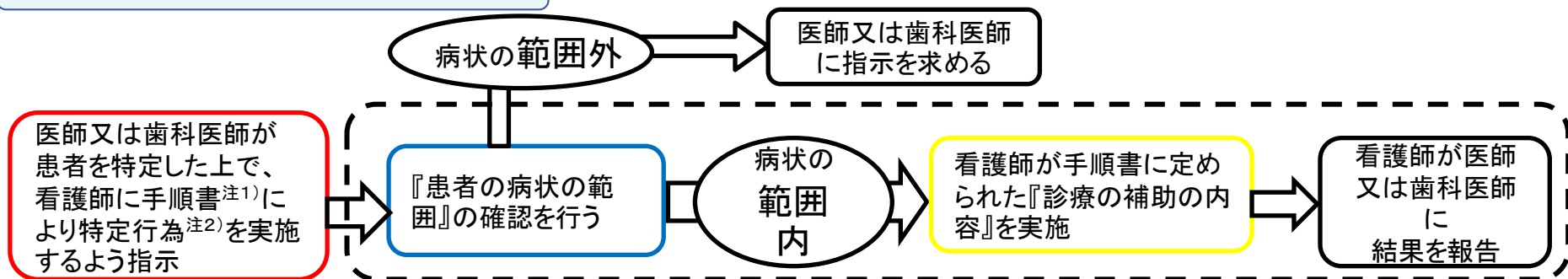
## 2. 特定行為に係る看護師の研修制度の概要

# 特定行為に係る看護師の研修制度の概要

## 制度創設の必要性

- 2025年に向けて、さらなる在宅医療等の推進を図っていくためには、個別に熟練した看護師のみでは足りず、医師又は歯科医師の判断を待たずに、手順書により、一定の診療の補助(例えば、脱水時の点滴(脱水の程度の判断と輸液による補正)など)を行う看護師を養成し、確保していく必要がある。
- このため、その行為を特定し、手順書によりそれを実施する場合の研修制度を創設し、その内容を標準化することにより、今後の在宅医療等を支えていく看護師を計画的に養成していくことが、本制度創設の目的である。

## 特定行為に係る研修の対象となる場合



注1) 手順書: 医師又は歯科医師が看護師に診療の補助を行わせるためにその指示として作成する文書であって、看護師に診療の補助を行わせる『患者の病状の範囲』及び『診療の補助の内容』その他の事項が定められているもの。

注2) 特定行為: 診療の補助であって、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされるもの。

- 現行と同様、医師又は歯科医師の指示の下に、手順書によらないで看護師が特定行為を行うことに制限は生じない。
- 本制度を導入した場合でも、患者の病状や看護師の能力を勘案し、医師又は歯科医師が直接対応するか、どのような指示により看護師に診療の補助を行わせるかの判断は医師又は歯科医師が行うことに変わりはない。

## 指定研修修了者の把握方法

研修修了者の把握については、厚生労働省が指定研修機関から研修修了者名簿の提出を受ける。

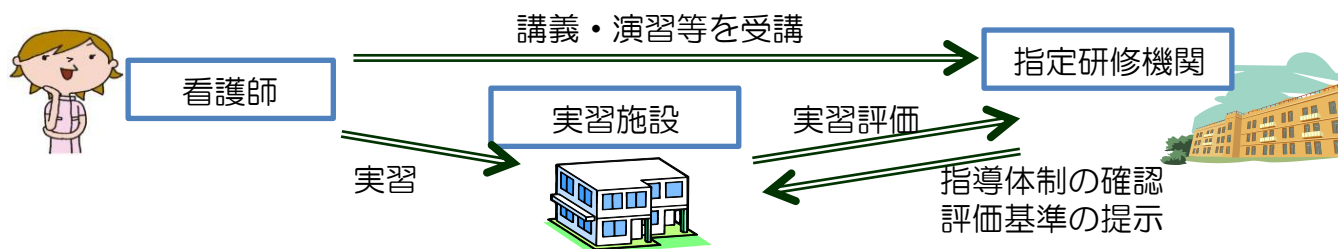
## 制度の施行日

平成27年10月1日

# 看護師の特定行為研修の概要

## 研修の実施体制等

- 厚生労働大臣が指定する指定研修機関において、協力施設と連携して研修を実施
- 研修は講義、演習又は実習によって実施
- 看護師が就労しながら研修を受けられるよう、
  - ① 講義・演習は、eラーニング等通信による学習を可能としている
  - ② 実習は、受講者の所属する医療機関等(協力施設)で受けることを可能としている



## 研修の内容

- 研修は、全てに共通して学ぶ「共通科目」と「区分別科目」に分かれる

### 「共通科目」

全ての特定行為区分に共通するものの向上を図るための研修

- 共通科目の合計時間数: 315時間

共通科目の内容	時間数
臨床病態生理学	45
臨床推論	45
フィジカルアセスメント	45
臨床薬理学	45
疾病・臨床病態概論	60
医療安全学	30
特定行為実践	45
合計	315

### 「区分別科目」

特定行為区分ごとに異なるものの向上を図るための研修

- 区分ごとに設定された時間数: 15~72時間

特定行為区分(例)	時間数
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	22
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	21
創傷管理関連	72
創部ドレーン管理関連	15
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	36
感染に係る薬剤投与関連	63

※1区分ごとに受講可能

※時間数には講義、演習及び実習を含む。

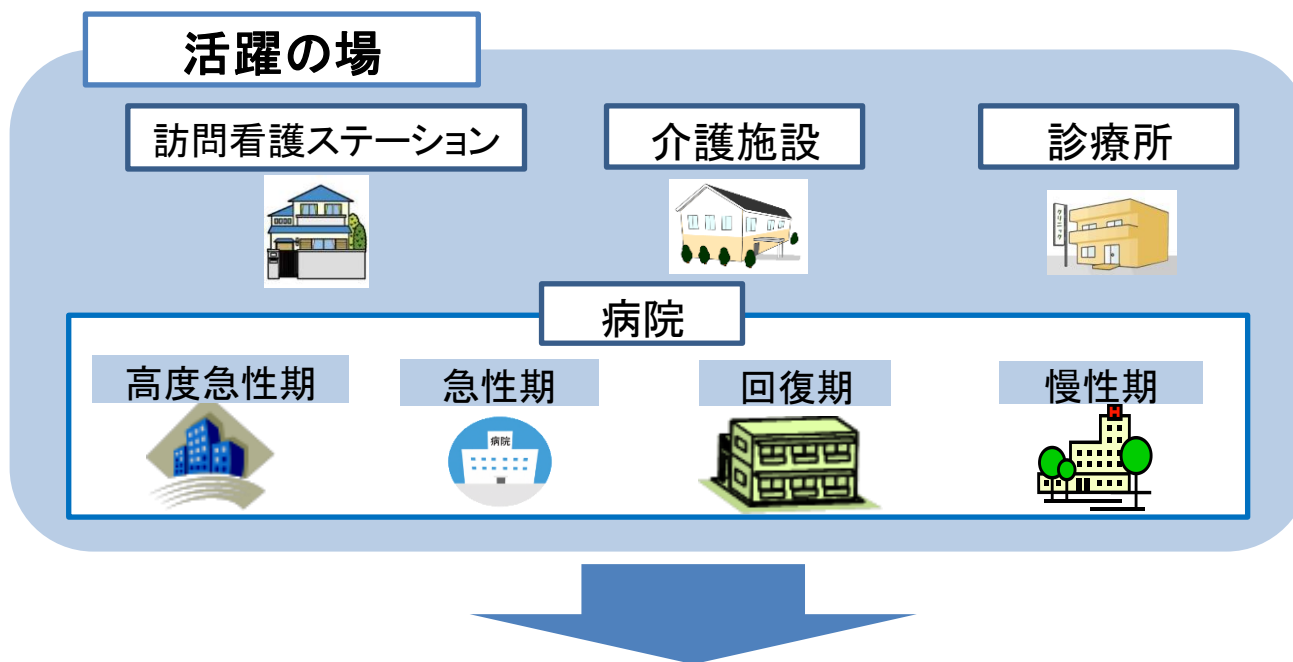
# 特定行為及び特定行為区分(38行為21区分)

特定行為区分	特定行為
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整
	人工呼吸器からの離脱
呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	気管カニューレの交換
循環器関連	一時的ペースメーカーの操作及び管理
	一時的ペースメーカーリードの抜去
	経皮的心肺補助装置の操作及び管理
	大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整
心嚢ドレーン管理関連	心嚢ドレーンの抜去
胸腔ドレーン管理関連	低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及び設定の変更
	胸腔ドレーンの抜去
腹腔ドレーン管理関連	腹腔ドレーンの抜去(腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む。)
ろう孔管理関連	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換
	膀胱ろうカテーテルの交換
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	中心静脈カテーテルの抜去
栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入

特定行為区分	特定行為
創傷管理関連	褥(じよく)瘡(そう)又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去
	創傷に対する陰圧閉鎖療法
創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血
	橈骨動脈ラインの確保
透析管理関連	急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
	脱水症状に対する輸液による補正
感染に係る薬剤投与関連	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整
術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
循環動態に係る薬剤投与関連	持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整
	持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整
	持続点滴中の降圧剤の投与量の調整
	持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	持続点滴中の利尿剤の投与量の調整
	抗けいれん剤の臨時的投与
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	抗精神病薬の臨時的投与
	抗不安薬の臨時的投与
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整

# 特定行為研修を修了した看護師の活躍のイメージ

- 看護師の特定行為研修制度は、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、今後の急性期医療から在宅医療等を支えていく看護師を計画的に養成することを目的としている。
- 特定行為研修を修了した看護師は、急性期から在宅医療等のさまざまな現場で、患者の状態を見極めて、タイムリーな看護を提供する等の活躍が期待される。



**2025年に向けて約10万人以上の養成を目指す**

※ 多くの看護師に特定行為研修を受講していただくため、身近な場所で研修を受けられる体制の整備が必要。